

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年1月27日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 シンプレクス・テクノロジー
 コード番号 4340 URL <http://www.simplex-tech.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員
 四半期報告書提出予定日 平成22年2月10日
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 金子 英樹
 (氏名) 澤田 正憲

TEL 03-3278-6750

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	9,280	14.4	1,690	32.9	1,673	35.3	966	33.6
21年3月期第3四半期	8,109	—	1,272	—	1,236	—	723	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
22年3月期第3四半期	1,761.09	1,706.33
21年3月期第3四半期	1,306.77	1,265.84

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
22年3月期第3四半期	8,598	4,986	57.3	8,979.39
21年3月期	8,545	4,152	48.2	7,497.13

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 4,928百万円 21年3月期 4,114百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
21年3月期	—	0.00	—	260.00	260.00
22年3月期	—	0.00	—		
22年3月期 (予想)				330.00	330.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	13,900	16.3	3,030	20.1	3,000	20.8	1,810	52.2	3,297.68

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
詳細は、「定性的情報・財務諸表等」4その他をご覧ください。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)
① 会計基準等の改正に伴う変更 有
② ①以外の変更 無
詳細は、「定性的情報・財務諸表等」4その他をご覧ください。
- (4) 発行済株式数(普通株式)
- | | | | | |
|----------------------|-------------|----------|-------------|----------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 22年3月期第3四半期 | 589,955株 | 21年3月期 | 589,955株 |
| ② 期末自己株式数 | 22年3月期第3四半期 | 41,085株 | 21年3月期 | 41,085株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) | 22年3月期第3四半期 | 548,870株 | 21年3月期第3四半期 | 553,483株 |

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。
予想には、様々なリスクや不確実性を内包しており、経済環境の変化等により、実際の業績はこれらの見通しから異なる結果となる可能性がありますので、この業績予想に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控え下さい。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

i. 当社の当第3四半期連結累計期間は、下記となりました。

連結売上高	9,280,979 千円	(前年同四半期比 14.4%増)
連結営業利益	1,690,318 千円	(前年同四半期比 32.9%増)
連結経常利益	1,673,475 千円	(前年同四半期比 35.3%増)
連結純利益	966,608 千円	(前年同四半期比 33.6%増)

当期経営成績の先行指標となる受注残高は、7,512,055千円(前年同四半期末比5.9%増加)です。

ii. 当第3四半期連結累計期間の連結経営成績については、下記の通りになります。

- 当第3四半期は、FX取引システムを中心としたインターネット取引システムの売上が牽引し、業績は売上高および利益ともに引き続き好調に推移しました。特にUMS(導入)の売上が、2,908,611千円(前年同四半期1,244,344千円)と増収に大きく貢献しました。また、継続型の収入であるUMS(サービス)の売上も、2,574,155千円(前年同四半期1,669,586千円)と大きく拡大し、安定した売上の柱として成長しています。その結果、連結売上高は9,280,979千円(前年同四半期8,109,998千円、前年同四半期比14.4%増)となりました。一方で、利益面においては、大証FX及びそれに関連するシステムに対する投資を中心として研究開発費を770,654千円(前年同四半期754,217千円)支出しましたが、研究開発費を含む販管費全体の支出を見直した結果、連結営業利益は1,690,318千円(前年同四半期1,272,225千円、前年同四半期比32.9%増)となりました。
- 分野別の売上では、インターネット取引システムの売上高が対前年同四半期比で1.4倍以上となり大きく増加しました。特に、個人投資家向けを中心に大きく市場が伸びているFX取引システムについては、証券会社と顧客が直接取引を行うOTC取引に加えて、くりっく365や大証FXといった取引所取引までカバーしてサービスを提供しており、当該分野におけるトップシェアを誇るシステムとして強い競争力を保っていると認識しています。
- ディーリング分野においては、当期は大型案件はありませんでしたが、メガバンク向けを中心に安定的に売上を拡大することができました。メガバンクにおけるフロンティア領域へのIT投資は統合処理の進展に伴って好調に推移しており、今後も継続的な売上拡大を目指します。
- 当期より、システム請負開発契約の収益及び費用の計上基準を、検収基準から工事進行基準に変更しております。これに伴って、当第3四半期においては、売上高は1,127,917千円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ303,159千円増加しております。
- 売上高売上総利益率は、41.5%(前年同四半期39.9%)と安定的に推移しました。UMS(導入)は、期初の想定どおり大証FX関連案件の初期開発部分の利益率が低下したことにより34.5%(前年同四半期43.2%)に低下しました。一方、継続収入となるUMS(サービス)は、利益率の高いUMSサービスの構成比が高くなった結果50.7%(前年同四半期49.9%)と利益率の改善に大きく寄与しております。
- 販売費及び一般管理費が2,163,187千円(前年同四半期1,959,637千円)に増加しております。これは、業績拡大に伴って人件費などの各種コストが増加したことが主な要因です。しかし、研究開発費に関して、770,654千円と前年同四半期と同水準の支出額にとどめ、販管費全体の見直しを行った結果、売上高に対する販売費及び一般管理費の比率が23.3%(前年同四半期24.2%)に低下しています。
- 当第3四半期末における受注残高は7,512,055千円(前年同四半期末比5.9%増加)となり、当期の受注状況は順調に進捗しております。特に、新しい金融商品として注目されているCFD(差金決済取引)に対応した個人投資家向けインターネット取引サービス「SPRINT(スプリント)」CFD版の提供を開始し、大和証券に採用されるなど順調なスタートを切っています。さらに、当社として初めての取引所システムの構築となった大阪証券取引所の大証FXが7月21日よりサービスを開始しており、12月には松井証券が大証FXへの参入を決定し当社サービスを採用しています。これにより大証FX対応版「SPRINT」の当社サービス採用社数は、合計8社となる見込みです。
- サブプライム問題に端を発する金融市場の混乱の影響を受け、当期の受注活動にも限定的ですが影響が生じております。一方で、来期以降の大口受注案件も出てきており、受注環境は徐々に好転しはじめています。今後も金融機関のIT投資動向を注視し、積極的な提案活動等による案件の掘り起こしを進めます。

① 売上の製品種類別の概況

	前年同四半期		当第3四半期		増減(千円)
	売上(千円)	利益率(%)	売上(千円)	利益率(%)	
システムインテグレーション	2,885,322	35.5%	2,524,728	35.2%	△360,594
システム保守	1,205,043	53.7%	1,199,928	48.6%	△5,114
UMS(導入) *1	1,244,344	43.2%	2,908,611	34.5%	1,664,266
UMS(サービス)	1,669,586	49.9%	2,574,155	50.7%	904,568
その他 *2	1,105,701	17.2%	73,556	100.0%	△1,032,145
総合計	8,109,998	39.9%	9,280,979	41.5%	1,170,980

*1 UMSとは、Universal Market Serviceの略で、顧客の収益等にリンクした形の契約となっているサービス全般を指します。

*2 大半がハードウェアなどの物品販売によるものであります。当第1四半期より手数料部分のみ売上に計上しております。

② 売上の分野別の概況

	前年同四半期売上(千円)	当第3四半期売上(千円)	増減(千円)
ディーリングシステム	2,646,642	2,725,517	78,875
CRM/SFAシステム	238,616	64,674	△173,941
インターネット取引システム	4,119,038	6,032,630	1,913,592
その他	1,105,701	458,156	△647,545
計	8,109,998	9,280,979	1,170,980

2. 連結財政状態に関する定性的情報

i 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、8,598,790千円(対前連結会計年度末比53,127千円増加)となりました。主に、コンピュータ関連機器(器具備品、ソフトウェア等)の取得やオフィス拡大に伴う敷金保証金の差入れにより固定資産が395,443千円増加した一方で、現金及び預金や売掛金の減少と開発未収入金の増加により流動資産が342,316千円減少したことによるものです。

また、負債合計は、3,612,541千円(対前連結会計年度末比781,084千円減少)となりました。主に未払法人税が259,193千円、買掛金が181,204千円、長期借入金が375,000千円減少したことによるものです。

また、純資産合計は4,986,248千円(対前連結会計年度末比834,211千円増加)となり、自己資本比率は57.3%(前連結会計年度末は48.2%)と改善しました。自己資本比率は高く、安定的な財務バランスを保っていると分析しております。

ii キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、営業活動によるキャッシュ・フローは増加しましたが、投資活動および財務活動によるキャッシュ・フローが減少したことにより、前連結会計年度末に比べ906,166千円減少し、2,049,561千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、412,068千円の資金取得(前年同四半期160,855千円の資金取得)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益を1,625,072千円、減価償却費を339,205千円計上したことや、売上債権が635,055千円減少したことから資金を得たこと、その一方で、仕入債務の減少181,204千円、営業未収入金の増加額1,127,917千円および、法人税等の支払額917,657千円による資金の減少を反映したものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、796,738千円の資金使用(前年同四半期781,704千円の資金使用)となりました。これは主に、有形固定資産の取得463,610千円、無形固定資産の取得201,120千円、敷金及び保証金の差入132,007千円による資金の減少を反映したものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、517,234千円の資金使用(前年同四半期229,999千円の資金取得)となりました。これは、長期借入金返済として375,000千円、配当金支払として142,234千円が発生したことによる資金の減少を反映したものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

(1) 業績予想

当第3四半期連結累計期間における業績の進捗状況等を勘案し、平成21年5月12日に公表しました平成22年3月期の連結業績予想を変更しております。詳細につきましては、本日（平成22年1月27日）公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な要因により、実際の業績は異なる結果となることがあります。

(2) 受注残高(連結ベース)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	受注残高		うち当期売上計上予定分	
	百万円	%	百万円	%
平成22年3月期第3四半期	7,512	(5.9)	2,504	(△17.0)
平成21年3月期第3四半期	7,093	(12.4)	3,017	(△7.9)
(参考) 平成21年3月期	6,438	(14.8)	—	—

(注) 1. 保守等の継続契約については、1年以内に売上が計上されることが確実な受注のみを受注残高としております。

2. UMS（サービス）売上につきましては、通常、固定売上＋インセンティブ売上となっておりますが、固定売上部分のみを受注残高としております。

3. 当期売上計上予定につきましては、「当期末までに検収する予定の売上」と「来期以降に検収する予定の進行基準売上」が見込まれますが、上記では「当期末までに検収する予定の売上」のみを当期売上計上予定分としております。

4. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

法人税等の計上基準については、法定実効税率をベースとした年間予測税率により計算しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

・システム請負開発契約に係る収益及び費用の計上基準

システム請負開発契約に係る収益及び費用の計上基準については、従来、システムの検収をもって売上及び費用に計上するいわゆる検収基準を採用しておりましたが、当期より「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を適用し、当該基準に合致したプロジェクトについては工事進行基準を採用しております。

これにより、従来 of 会計処理基準を適用した場合と比べて、売上高は1,127,917千円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は303,159千円増加しております。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,049,561	2,955,727
売掛金	751,745	1,386,801
未収入金	1,127,917	—
仕掛品	550,140	581,594
繰延税金資産	168,000	168,000
その他	255,890	161,008
貸倒引当金	—	△7,559
流動資産合計	4,903,255	5,245,571
固定資産		
有形固定資産	906,381	761,087
無形固定資産	294,562	157,570
投資その他の資産		
投資有価証券	1,389,082	1,431,032
長期前払費用	113,016	94,825
敷金及び保証金	759,241	628,877
保険積立金	2,330	2,039
繰延税金資産	147,109	140,849
その他	83,810	83,810
投資その他の資産合計	2,494,590	2,381,433
固定資産合計	3,695,534	3,300,091
資産合計	8,598,790	8,545,662
負債の部		
流動負債		
買掛金	693,912	875,116
短期借入金	500,000	500,000
未払金	252,918	677,961
未払費用	51,421	56,650
未払法人税等	275,351	534,544
前受金	172,883	113,019
賞与引当金	343,719	—
役員賞与引当金	107,412	—
開発損失引当金	2,304	—
その他	37,619	86,333
流動負債合計	2,437,541	2,843,626
固定負債		
長期借入金	1,175,000	1,550,000
固定負債合計	1,175,000	1,550,000
負債合計	3,612,541	4,393,626

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	368,480	368,480
資本剰余金	316,900	316,900
利益剰余金	5,886,499	5,062,597
自己株式	△1,673,086	△1,673,086
株主資本合計	4,898,794	4,074,892
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	32,939	41,949
為替換算調整勘定	△3,219	△1,889
評価・換算差額等合計	29,720	40,059
新株予約権	57,687	37,038
少数株主持分	45	45
純資産合計	4,986,248	4,152,036
負債純資産合計	8,598,790	8,545,662

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	8,109,998	9,280,979
売上原価	4,878,135	5,427,472
売上総利益	3,231,863	3,853,506
販売費及び一般管理費	1,959,637	2,163,187
営業利益	1,272,225	1,690,318
営業外収益		
受取利息及び配当金	19,676	25,832
雑収入	430	2,212
営業外収益合計	20,107	28,045
営業外費用		
支払利息	18,683	20,809
為替差損	332	1,146
持分法による投資損失	35,947	22,251
雑損失	491	680
営業外費用合計	55,455	44,888
経常利益	1,236,877	1,673,475
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	7,559
特別利益合計	—	7,559
特別損失		
事務所移転費用	—	10,444
固定資産除売却損	1,083	41,091
投資有価証券評価損	—	4,427
特別損失合計	1,083	55,963
税金等調整前四半期純利益	1,235,793	1,625,072
法人税、住民税及び事業税	512,519	658,463
四半期純利益	723,273	966,608

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,235,793	1,625,072
減価償却費	208,368	339,205
貸倒引当金の増減額(△は減少)	—	△7,559
投資有価証券評価損益(△は益)	—	4,427
受取利息及び受取配当金	△19,676	△25,832
支払利息	18,683	20,809
為替差損益(△は益)	2,996	2,931
持分法による投資損益(△は益)	35,947	22,251
有形固定資産除売却損益(△は益)	1,083	35,337
無形固定資産除売却損益(△は益)	—	5,753
無形固定資産償却費	50,073	—
開発損失引当金の増減額(△は減少)	—	2,304
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	69,000	107,412
賞与引当金の増減額(△は減少)	340,431	343,719
売上債権の増減額(△は増加)	287,538	635,055
未収入金の増減額(△は増加)	—	△1,127,917
たな卸資産の増減額(△は増加)	△523,604	31,453
仕入債務の増減額(△は減少)	127,460	△181,204
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	△532,346	△430,744
前受金の増減額(△は減少)	△171,806	59,863
その他	△72,552	△137,637
小計	1,057,389	1,324,702
利息及び配当金の受取額	19,676	25,832
利息の支払額	△18,683	△20,809
法人税等の支払額	△897,527	△917,657
営業活動によるキャッシュ・フロー	160,855	412,068
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△403,757	△463,610
無形固定資産の取得による支出	△61,331	△201,120
投資有価証券の取得による支出	△30,000	—
敷金及び保証金の差入による支出	△186,779	△132,007
長期前払費用の取得による支出	△99,544	—
その他	△291	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△781,704	△796,738
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	600,000	—
短期借入金の返済による支出	△400,000	—
長期借入れによる収入	1,500,000	—
長期借入金の返済による支出	△200,000	△375,000
株式の発行による収入	6,382	—
自己株式の取得による支出	△1,156,421	—
配当金の支払額	△119,961	△142,234
財務活動によるキャッシュ・フロー	229,999	△517,234
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6,174	△4,261
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△397,023	△906,166
現金及び現金同等物の期首残高	2,781,941	2,955,727
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,384,917	2,049,561

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

当第3四半期連結累計期間において、当社グループはすべて同一セグメントである情報サービス業に属するシステム受託開発、パッケージ商品、これらに伴う保守作業を行っております。

よって、当該事業以外に事業の種類がないため該当事項はありません。

〔所在地別セグメント情報〕

当第3四半期連結累計期間において、本邦の売上高及び資産の金額は、全セグメントの売上高及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

当第3四半期連結累計期間において、海外売上高は、いずれも連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. その他の情報

生産、受注及び販売の状況

(1) 生産実績

当第3四半期連結累計期間の生産実績を製品の種類別に示すと、次のとおりであります。

製品種類別	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	前年同四半期比 (%)
システムインテグレーション (千円)	1,758,984	79.1
システム保守 (千円)	616,606	110.5
UMS (導入) (千円)	1,758,360	201.1
UMS (サービス) (千円)	1,264,427	153.6
合計 (千円)	5,398,379	120.5

- (注) 1. 金額は製造原価によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3. その他については、生産を行っておりませんので該当ありません。

(2) 受注状況

当第3四半期連結累計期間の受注実績を製品の種類別に示すと、次のとおりであります。

製品種類別	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)			
	受注高 (千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同四半期比 (%)
システムインテグレーション	3,145,127	103.6	1,516,309	81.3
システム保守	1,206,701	88.1	1,585,431	101.9
UMS (導入)	2,606,910	175.3	1,117,439	83.5
UMS (サービス)	3,530,700	135.6	3,200,855	147.6
その他	△135,010	△12.3	92,019	55.3
合計	10,354,428	107.9	7,512,055	105.9

- (注) 1. 保守等の継続契約については1年以内に売上が計上されることが確実な受注のみを受注残高としております。
2. 金額は販売価格によっております。
3. UMS (サービス)につきましては、通常、固定売上+インセンティブ売上となっておりますが、固定売上部分のみを受注残高としております。
4. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
5. 当期より、その他について手数料部分のみを計上するネットティング処理を実施しているためその他の受注高がマイナスとなっております。

(3) 販売実績

当第3四半期連結累計期間の販売実績を製品の種類別に示すと、次のとおりであります。

製品種類別	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	前年同四半期比 (%)
システムインテグレーション (千円)	2,524,728	87.5
システム保守 (千円)	1,199,928	99.6
UMS (導入) (千円)	2,908,611	233.7
UMS (サービス) (千円)	2,574,155	154.2
その他 (千円)	73,556	6.7
合計 (千円)	9,280,979	114.4

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 当期より、その他の販売実績は手数料部分のみを計上しております。